

2 福祉のまちづくり条例推進事業

「福祉のまちづくり」とは、誰もが互いに理解し助け合う環境と、高齢者・障害者や子育て中の方など全ての人が安全・円滑に施設を利用できる環境を整えることにより、地域で安心して生活でき、自分の意思で自由に様々な活動に参加できる社会をつくることです。

昭和 52 年には「福祉の都市環境づくり推進指針」を定め、市民、事業者の理解と協力のもと、建物、道路、駅舎、公園等の整備を図るなど 30 年以上にわたり「福祉のまちづくり」を進めてきました。

具体的な施策としては、誰もが安心して交通機関を利用できるようにするため、平成 2 年度に、鉄道駅舎へのエレベーター等の設置費を補助する制度を設けるとともに、平成 3 年度からは、車椅子のまま乗降できるリフト付き路線バスの導入、平成 9 年度からは、車椅子使用者をはじめ誰にも乗りやすいノンステップバスを市営バスに導入し、さらに平成 10 年度から補助制度を設け、民営バス事業者にもノンステップバスの導入促進を図ってきました。

これらの成果や課題を踏まえ、福祉のまちづくりを総合的に進めるため平成 9 年 3 月に「横浜市福祉のまちづくり条例」を制定しました。この条例では、市民・事業者・市の協働により福祉のまちづくりを推進するため、基本的な事項を審議する「横浜市福祉のまちづくり推進会議」を設置するとともに、福祉のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていく「横浜市福祉のまちづくり推進指針」を策定しています。また、整備基準等を規定した同条例施行規則を平成 10 年 1 月に制定し、従来は「横浜市福祉の都市環境づくり推進指針」で行っていた協議を条例に基づく事前協議として義務付けました。

この間、国では「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（以下「ハートビル法」という。）」が平成 14 年に改正され、ハートビル法に基づきバリアフリーに関する条例を市が制定できるようになり、平成 16 年に「横浜市高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる建築物に関する条例（以下「ハートビル条例」という。）」が制定されました。平成 18 年には、公共交通機関等のバリアフリーに関する法律と改正ハートビル法が一本化した「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」が制定され、これに伴い、ハートビル条例も「横浜市高齢者、障害者等が円滑に利用できる建築物に関する条例（以下「建築物バリアフリー条例」という。）」と名称を改めました。

このように、本市では背景の異なる建築物のバリアフリーに関する 2 つの条例が存在していましたが、横浜市としてより一体的に建築物のバリアフリーを進め、また、市民・事業者にとってより分かりやすい条例とするため、平成 24 年 12 月に建築物バリアフリー条例と一本化を図る等を含め、横浜市福祉のまちづくり条例を改正しました。

1 横浜市福祉のまちづくり条例に基づく協議等状況

平成 26 年度までの実績	協議件数		
	官庁	民間	計
	1,484	9,129	10,613

平成 27 年度の実績 (平成 28 年 3 月末現在)	協議件数		
	官庁	民間	計
	71	537	608
建築物	58	521	579
道路	1	2	3
公園	4	0	4
鉄道の駅	6	12	18
軌道の停留所	0	0	0
港湾旅客施設	0	0	0
バスターミナル等	2	2	4
計	71	537	608

2 鉄道駅舎エレベーター等設置事業

(1) 事業内容

高齢者、障害者、子育て中の方などの公共交通機関の利用環境の改善のため、移動の拠点となる鉄道駅舎を対象とした鉄道駅舎エレベーター等設置事業を実施しています。

(2) 実績（平成 27 年度）

JR 横浜線菊名駅 エレベーター設置に係る調整

3 高齢者・障害者等に配慮した路線バス整備事業

(1) 事業内容

車椅子使用者、高齢者、障害者など誰もが乗降しやすいノンステップバスの導入を促進するため、横浜市内に営業所を持つバス事業者に対し、ノンステップバスの導入に係る経費の一部を補助しています。

(2) 実績（平成 27 年度）

ノンステップバス補助台数 52 台

4 横浜市福祉のまちづくり推進指針に基づく事業

(1) 心のバリアフリー啓発

主に小学校 4 年生を対象に身近なバリアフリーを学び、日頃の生活・行動に生かしていただくための啓発パンフレットを市立小学校 4 年生全児童に配布しました。

(2) 市職員等に対する研修

区局の職員を対象に高齢者疑似体験及び車椅子体験を通し、高齢者、障害者の立場を理解し、日頃の業務に生かす研修を計 6 回実施しました。また、市職員・民間建築士を対象に白杖体験、車椅子体験や講義を通し、福祉のまちづくりの視点を学ぶ研修を 2 回実施し、計 40 名が受講しました。

(3) 福祉教育の充実

教育委員会主催「子どもアドベンチャー2015」で、子供たちが車椅子体験や視覚障害体験をしながら障害当事者とまち歩きをする「バリアフリークエスト in 関内」を実施しました（平成 27 年 8 月 18 日）。

(4) 誰もが使いやすい建築物等の整備推進

主に民間建築士の方を対象に、建物におけるバリアフリーの重要性を学ぶ福祉のまちづくり研修会を平成 28 年 2 月に実施し、39 名が受講しました（川崎市主催、神奈川県・本市共催）。